～ほんものは時代を超えて～　妥協しないもの作り

有限会社　興紬商店
代表取締役　興　辰雄

大島紬発祥の地，龍郷町。古くから龍郷柄や秋名バラ・戸口西郷等が盛んに生産されていました。龍郷町戸口にて父の代から大島紬に携わり，工程の一つである，のり張りの仕事をやっていました。頑固な父の口癖は「職人は口を動かさずに手を動かせ」とよく言っていたものです。

独立して30年，会社組織にして22年を迎えました。厳しいこの業界で生き残るにはどうしたらいいのか。奄美の先人達が守り伝えてきた大島紬。1300年もの長い歴史。やはりほんものは時代を超えて愛されるはず！これをモットーに手抜きをしない物作りが始まりました。

当社の特徴の総絣技法や多色使い，他社との差別化そしてやればやるほどに奥深く，大島紬の魅力にはまっていきました。携わる職人も意気投合。最高の技術を持って製品作りに皆で励み，2005年ついに本場奄美大島紬グランプリを獲得しました。それから2009年までに計4回のグランプリ受賞，特に2007年は各部門の賞を総なめにして，これまでに例のない事だと言われ，皆で喜んだものです。

このように評価して頂くまでには，色々な事がありました。泥染めの地あきを織ると透けた部分が織り上がる原因が分からず，製品を持って大島紬技術指導センター（現工業技術センター大島紬部）に行き，その部分の糸の状態を調べてもらい，原因の究明などの指導を受けながらやってきました。自然の染色方法，そして手作業の工程ですので，理屈では割り切れない所も多々あります。

先輩達がよく言います。「糸は生きている。ウソはつけないよ。」製品になったときにその言葉の意味がわかります。手抜きをすれば製品に表れ，ごまかせば製品に表れる，伝統のものはやはり妥協しないこと。そして伝統は守るのは当然ですが，ニーズにあったもの作りも大切であると思います。

伝統プラス工夫。着物にとらわれず，形を変えてみるという思いから，大島紬ホズミコレクションとして洋装や紬小物類等も手掛けておりました。

そして2008年の県特産品コンクールに出品し，工芸品の部でトランクバッグが県知事賞を，また，翌2009年には日傘が特産品協会理事長賞を受賞致しました。

色々と夢は広がり，そして大島紬の可能性も広がる。ひとりでは決して出来ない多くの人々の力が一つになって初めて生まれてくる大島紬。これからも職人共々，この伝統ある産業に携わる幸せと誇りを感じ，頑張っていきたいと思います。

(有)興紬商店　本社・工場

大島紬（商品例）